

沖縄県北部における民間救急ヘリMESHの活動

上江洲 安勝

認定NPO法人 MESHサポート

公益社団法人 北部地区医師会病院

沖縄県北部で救急ヘリ（以下MESH）は活動している。平成20年からMESHサポートは、民間救急搬送ヘリを運営している特定非営利法人（NPO）として認められ、平成23年からは認定NPO団体として活動を続けている。

活動場所として沖縄北部地域は、診療所の閉鎖・診療科の縮小により医療整備が遅れています。

また、救急病院が2箇所しかなく、救急患者への対応が困難になり、同県他地域に比べ医療格差は広がっています。このような医療格差を改善する為にMESH運行は始まりました。

平成19年に社団法人（現公益社団法人）北部地区医師会協力のもと、医師会病院救急部医師・看護師で試行運行として、MESH（救急ヘリ）運航を開始した。

開始して、近隣消防や市町村と協力のもと、現場や施設間での救急患者を搬送してきた。件数としては、230件／13か月の要請に応じてきた。しかし、病院の経営不振により開始から1年後、MESHの運休が決まった。医師、看護師、救命士はNPO法人を立ち上げ、募金活動、広報活動し運航を支えてきた。

さらに、平成23年3月に起きた東日本大震災では、岩手県災害対策本部からの要請でMESHは、迅速な医療環境の復興を行う為、平成23年3月28日から4月12日の間、MESHにしかできないヘリを活用した支援活動を行ってきた。

沖縄県、国行政に呼びかけ、市民や県民に呼びかけ募金として援助を頂き、平成21年には再開できた。しかし、高額な運航費には間に合わず、資金難から、再休止となった。休止と再開を繰り返したが、航空会社に委託していた運行形態の見直しをし、自主運行としてMESHでヘリを調整（レンタル機）し、熟練した操縦士、整備士だけを運行会社へ委託する方法で支出圧縮を図った。さらに、震災に向けられた募金や寄付もMESHへの支援へと変わり、幅広く頂き、運行の見通しが付いた平成25年4月に再々開に至った。

日本でもここ最近マスコミ等からの情報で、認知されてきたドクターヘリだが、沖縄では認知度は低い。だが、以前より離島支援としての、洋上救急・急患搬送として、海上保安庁や、陸上自衛隊等による搬送方法は、確立されている。運用方法にまた、医療圏としては、10万人の住民が対象である。

沖縄北部の内陸部には、密林地帯が滝や、川が多く自然に恵まれた環境である為、ハイキングコースとなり、多発外傷のスポットとなる事が多い。救出困難箇所は、十数箇所が確認している。

消防スタッフ医療スタッフと共に、体力が必要な箇所となる。

また、沿岸をも含めると、数十箇所と多く点在している。救助訓練には海上保安庁、陸上自衛隊との合同吊り下げ訓練等の調整を続けている。